

3 風水害等に備えて

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨情報をキャッチ! こんなときのわが家の安全対策。



大雨注意報・警報・特別警報の発表基準

大雨注意報

大雨によって災害が起こるおそれがあると予想される場合

大雨警報

大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合

大雨特別警報

台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合

上記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発令されます。気象庁にて、地震による地盤の緩みを考慮し、揺れの大きかった市町村については、大雨警報・注意報の発表基準(土壤雨量指標基準)を暫定的に引き下げて運用する場合があります。

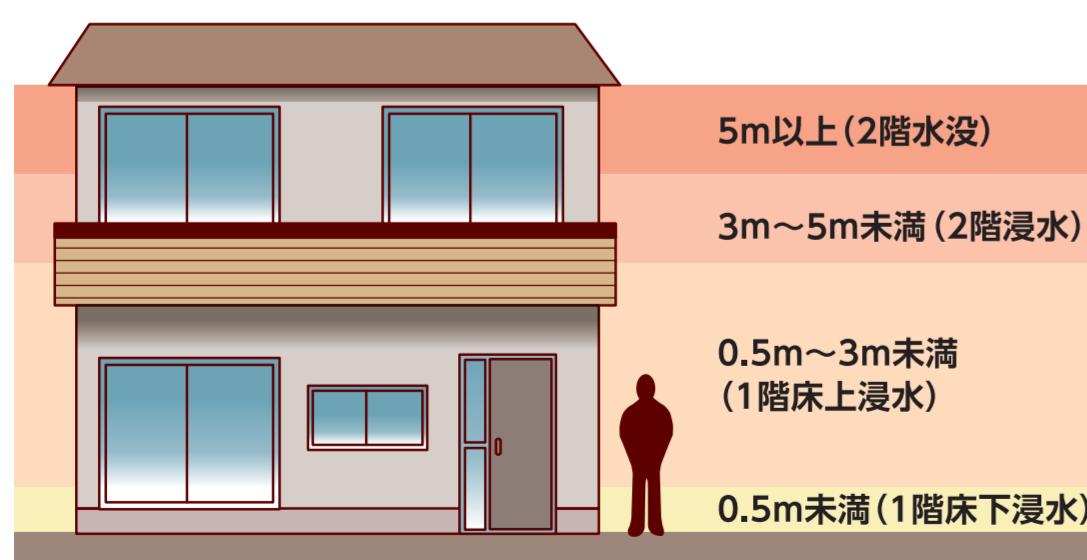
浸水想定区域とは

河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域と深さを求め、それをシミュレーションにより示したものが浸水想定区域です。想定は、一宮川流域の24時間総雨量640.2mmにより一宮川およびその支川が氾濫した場合です(想定最大規模)。また、令和元年10月25日の大雨被害も参考として着色しています。

なお、シミュレーションにあたっては、対象河川以外の河川の氾濫、内水による氾濫等を考慮していませんので、浸水想定区域図に示されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

浸水想定区域図では下記の4ランクに分けて浸水深を表示しております。

浸水の深さについて



想定される浸水の深さ

5.0m
以上の浸水想定区域

3.0~5.0m
未満の浸水想定区域

0.5~3.0m
未満の浸水想定区域

0.5m
未満の浸水想定区域

水害時の心得

被害の軽減

扉の下の隙間から汚水が入ってくるので、「土のう」や板などで前面を囲み、タオルで隙間をふさぎます。また、ポリタンクなど軽い物は事前に屋内に移しましょう。



危険なところには近寄らない

切れた電線のそばなど、危険な場所に近寄らないようにしましょう。また、氾濫水には汚水が混ざっているので、子供などがさわらないように気をつけましょう。



動きやすい格好で

動きやすい服装で、軍手をはめ、ヘルメットをかぶり、はき物は水に浸かっても歩きやすいものを選びましょう。レインコートは上下が分かれているタイプがよいでしょう。



水面下は危険です。2人以上で避難を

浸水した場所を歩く時は、長い棒を杖がわりにして、マンホールや側溝がないか水面下の安全を確認し、2人以上の行動を心がけましょう。



歩ける深さ男性約70cm、女性約50cm

洪水の場合、歩ける深さは男性で約70cm、女性で約50cmまで。それ以上になら高い場所で救助を待ちましょう。



避難の前に確認を

避難する時は、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉め、床下の通気口などをふさぎ、戸締りを確認しましょう。



避難は徒歩で

車での避難は、歩行者・緊急車両の妨げになります。また、浸水すると動かなくなるので使わないようにしましょう。



川の氾濫等

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を超える、あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。



内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれず溜まって起きた洪水。的確なタイミングで警報や避難勧告を出すのが難しいため、注意が必要。

